

日本、それは右翼の国?

済州大学校 1年

チョ・グアンヒ

最近、様々なメディアが日本の右翼化を取り上げていて、人々の関心を集めています。最近も、日本の京都朝鮮学校の近くで「在特会」が街頭デモを起こしたそうです。それに対し京都地方裁判所は「在特会」に、京都朝鮮学校への 1226 万円の賠償金を支払うことと、学校周辺の半径 200M 以内においての街頭宣伝を禁止することを命令しました。

最近の日本に関わる記事には「嫌韓」を唱えながらデモをする人々の写真がよく出てきます。そのため、おそらく皆さんの多くが、日本にあまりよくない感情を持っていると思います。

日本には、様々な右翼団体がありますが、その中でも、「在特会」（在日コリアンの特権を許さない市民の会）という団体は、その過激なデモで、注目を浴びています。彼らは「朝鮮学校無償教育反対」、「外国籍住民に対する生活保護支援金支給反対」、「不法入国者追放」、「核武装推進」などを主張していて、ためらいもなく人種・地域差別的な発言をしています。

「在特会」を見て、私は彼らがまるでイルベ（日刊ベスト貯蔵所）のようだと思います。イルベは右翼的な使用者たちが愛用する韓国サイトで人種差別的な発言をしています。また、地域感情を助長し、政治的、社会的に有害な掲示物を上げるなど問題が多い集団で、最近の韓国社会の癌的存在です。彼らは自分たちが正しいと思うことだけを信じ込み、それに反する考え方は排除します。「在特会」と似ていませんか？

では皆さん、「仲良くしようぜ」というフレーズを聞いたことがありますか。この言葉は、「在特会」のデモに対して、反嫌韓デモ隊の中のプラカード部隊が使うフレーズです。「レイシスト（人種差別者）帰れ」などのフレーズと一緒に使われます。反嫌韓デモ隊は主にプラカードを持って、平和的な活動を行います。彼らがこれほど積極的に行動するのには、理由があります。彼らが見ても、「在特会」の活動がとても過激化したからです。「在特会」が東京のコリアタウンである新大久保で、「散歩」という名のグループを作り、通行人と商店街の人々を脅す姿がしばしば目撃されています。このような活動に対して、数少ない人が単に「散歩」活動を阻止するために集まりました。新大久保の 10 代の K-POP ファンが「在特会」会長の桜井誠のツイッターに、嫌韓デモに対する抗議の言葉をつぶやき、それがオンライン上で知られ、話題になり、大衆の関心を集めるようになったのです。その後、反嫌

韓デモ隊が生まれました。現在、デモに参加する人の数は、200人から300人程度だそうです。プラカード部隊の中には、韓国と縁のある人も多いですが、人種差別的なデモの問題を意識し、参加している日本人も多いと言われています。

このような事実から、私が皆さんに伝えたいと思っていることは二つです。一つ目は、韓国に反感を持たず、韓国が大好きな日本人も多いということ。二つ目は、「在特会」のような嫌韓団体の主張が、全ての日本人の声を代弁するものではないということです。私たちに良くない感情を持っている人々が主張することだけを見て、これが日本国民全体の主張だと偏見を持たないでください。実際には嫌韓デモ隊より反嫌韓デモ隊がより多いです。しかし、残念にも人々は嫌韓デモ隊が街を闊歩してデモをする記事に多く接しています。そしてそれを見て感情的に日本を嫌いになることもあります。私が望むことは、韓国のメディアが嫌韓デモ隊にフォーカスを合わせるより反嫌韓デモに参加する人たちのことを書いてくれることです。

最後にみなさんに日本について知ろうと努力しようと言いたいです。

日本は、韓国と似た点が多い国だと思います。それで、お互いをかなり意識しています。それは、メディアがそれぞれお互いの国のニュースを大きく扱うことを見ても分かります。ある時はお互いを批判し、またある時は一緒に苦難を乗り越え、成長してきたと私は思います。親しくなりたい友達に近づくためにその友達について知ろうと努力するように彼らの文化や生きていく姿を理解しようと努力すればいつか私たちにとって近くて遠い国ではなく、近くて近い国になるにちがいません。